



広報

きょう

2009

5月号

No.320



第3回フォトコンテスト in きょう / 入賞作品

NEWS INDEX

- 木城町地域包括支援センター
- 木城町農村女性指導士協議会
- 平成21年度施政方針
- 平成21年度当初予算
- まちのわだい
 - 中之又小学校卒業式 (H.21.3.24)
 - 木城温泉館「湯らら」温泉まつり (H.20.4.4～5)
 - 役場機構並びに職員配置図
- 人間萬歳・消防団
- 文化財よもやま話 43
- 脱「メタボ」クッキング
- えほんの郷だより・人口・編集後記

情報提供・お問い合わせ先
ホームページアドレス

<Eメール> soumu@town.kijo.jp
<URL> <http://www.kijo.jp/>
<E-mail> info@town.kijo.miyazaki.jp

木城町地域包括支援センター

～住み慣れた木城のまちで生き生きと…活動的で生きがいに満ちた人づくり～

地域包括支援センターとは？

高齢者の方やその家族の相談を受けたり、高齢者等の心身の状態に応じた各種サービスの提供などを支援する地域の総合的な支援センターです。

事務所も平成21年4月1日から木城町役場内に移転し、4名の専門職員が相談等に応じます。お気軽にご相談ください。

【主な利用対象者】

- 高齢者の方やその家族
- 一人暮らしや高齢夫婦世帯で日常生活に不安のある方
- 基本健康診査で生活機能低下が認められた方
- 介護保険において要支援1・2の認定を受け、介護予防サービスを利用される方
- 寝たきりや認知症で介護が必要な方やその家族など
- その他保健・医療・福祉サービスの利用を希望される方

【職員体制及び業務内容】

サービスの提供には主任介護支援専門員と保健師、社会福祉士、看護師を配置し、以下の業務を行います。

- 要支援・要介護に該当しない方の介護予防サービスの相談・計画をします。
- 要支援1・2と認定された方の新たな介護予防サービス（新予防給付）が適切に提供されるように調整します。

- 高齢者が、適切なサービスを継続して利用できるように、主治医や介護支援専門員との連携をはじめ、地域の関係機関との協力により、継続的な支援を行います。

- 認知症の保護や虐待の防止・早期発見など、高齢者がいかに「自分らしく尊厳ある生活」が送れるように、専門的・継続的な視点からの支援を行います。

- 高齢者やその家族の相談を受け、適切なサービスにつなげます。相談の内容によってサービス、制度に関する情報提供や関係機関への紹介をします。

相談時間

月曜日から金曜日（祝祭日、年末年始を除く）
午前8時20分から午後5時20分まで

4月から新たに4名体制でスタートしました。
笑顔いっぱいのスタッフが皆さんの健康づくり
や生きがいづくりに向けて一緒にお手伝いします。
いつでも気軽に声をかけてください。
よろしくお願いします。



後列左から 中井裕子・長友美代子
前列左から 廣瀬菜美子・河野真由美

木城町農村女性指導士協議会 活動紹介

木城町農村女性指導士協議会は平成9年に発足し、現在は5名で協力し合いながら農業女性支援活動や食農活動を積極的に活動しています。

今回、地産地消推進の取り組みが認められ、地産地消優良活動表彰事業で九州農政局長賞を受賞しました。農作業や家事、地域活動に参加しながら、協議会活動にも積極的に取り組む彼女たちは、「歴代のメンバーの実績や周りの協力があったからこそ受賞できました。これからも楽しく活動が続けたい」とコメント。これからの彼女たちの活動に大いに期待したいと思います。



「お茶でいっぷく」講習会



「すまいるかかしコンテスト」
かかし設置



「地産地消かんたんレシピ」作成



「じゃがいく体験」じゃがいも収穫



「地産地消かんたんレシピ」



「じゃがいく体験」調理実習



木城産小麦でパン作り体験



高農主催田植え選手権に参加

平成21年度施政方針

平成21年第2回木城町議会定例会が開会され、平成21年度木城町一般会計予算など34件の議案及び1件の諮問が上程され可決されました。

田口晃史町長が示した、平成21年度の町政運営に関する基本方針と主要事業について紹介します。

世界の金融資本市場は、百年に一度といわれる危機に陥っており、金融の激変が世界経済を弱体化させています。

平成20年度のわが国経済は、世界の金融資本市場の危機を契機に、輸出、生産、収益が減少し、企業の倒産が増加しております。さらに、雇用情勢が急激に悪化しつつあります。

世界的な景気後退が見られる中で、外需面に加え、国内需要も停滞し、景気も下降局面にあり、景気の回復は2～3年かかると思われるっております。

そうした中で、平成21年度の地方財政は、地方財政計画の規模の抑制に努めてもなお財政不足が大幅に拡大する状況にあります。社会保障関係経費の自然増が見込まれ、地方財政の借入金残高が増大しており、今後その償還負担が将来の財政運営を圧迫することが強く懸念されていきます。

本町においては、平成20年度から小丸川発電所が一部運転開始したことによる固定資産税により、普通交付税の不交付団体となり町税の大幅な増となったところです。しかし、これまで行ってきた歳出改革を緩めることなく、真に必要な住民のニーズに応えるための財源配分を行ったところであります。併せて、町内景気浮揚対策のための予算も計上しました。

なお、本町は平成20年度末で約35億9千万円の起債残を有しており、今後、起債償還や繰入金等が財政を圧迫することが予想され、より一層の歳入の確保と歳出の見直しをしていくことが重要であると考えます。

本町は、これまでも財政の健全化や住民の

福利向上を目指して行財政改革に取り組んでまいりましたが、引き続き事務事業の改善や行政経費の削減、職員の定数管理などに積極的に取り組んでまいりたいと思います。これら行政改革を進めていくには、住民の皆様の理解と協力が不可欠と考えます。行政主導型でなく、住民の皆様も積極的に参加していただき、町政に対する提言等を行っていただきたいと思ひます。

議員各位におかれましては、なお一層のご指導とご協力をお願いいたします。

今後とも住民の皆様一人ひとりが、安全で安心な生活が実感できる「小さくても誇れる、キラリと輝く町づくり」のために全力で取り組んでまいりたいと思ひます。

以下、予算編成に当たった重点項目について記述します。

1 快適な生活環境の整備

町民生活の根幹となる社会基盤施設のうち、道路や水道および下水道の整備は最も基本的なものであります。

町道は、住民生活の利便性に直接かわるものであり、また交通安全の面からも整備は必要であります。施工については20年度に引き続き、「池田中椎木線」、「荒瀬2号線」、「中椎木2号線」等の整備を行うこととしました。今後も町民の要望や必要性の高い路線から整備を行うこととします。

簡易水道整備については、創設当初からの老朽配水管の布設替え、漏水調査等を定期的に実施し、安全で安心して使用できる飲料水の供給に努めます。

下水道整備については、処理場増設工事を引き続き行い、完了させます。また、管渠工事も計画に沿って実施することにも、加入促進に努めてまいります。

なお、当事業区域以外については、合併浄化槽の普及を進め、生活環境の向上に努めてまいります。

2 農林業の向上を目指して

本町の基幹産業であります農林業については、農業生産額を上げ、魅力ある農業、持続可能な農業にするべく、生産現場・生産農家にわかりやすい施策を適宜実施することとします。

米の生産調整については、需給に応じた売れる米作りと、担い手を中心とした生産性の高い水田農業経営の確立に取り組んできたところでありますが、引き続きその振興に努めることとします。

21年度は、生産調整に取り組まれる農家や、今までは以上に生産調整を推進される農家に對して、「水田等有効活用促進事業」の有効的な活用や、認定農業者を中心とした、耕畜連携推進対策への取り組みを図り、効率的、安定的な水田農業経営の確立を目指し、目標達成のために引き続き助成措置を実施することとしました。

畜産業については、飼料価格の高騰、子牛・枝肉相場が低迷していますが、農家の継続性と更なる資質向上を念頭に事業推進を行います。具体的には、和牛における繁殖基盤の整備、町内子牛の販売促進、枝肉出荷における価格の補填、乳牛における優秀雌牛の確保等を推進し、生産振興を図ることとします。

また、平成20年度から西都児場地区で実施しています国庫補助事業の「畜産担い手育成総合整備事業」において、担い手における牛舎整備を推進し、増頭を計ることとします。

農道・林道・水路等については、受益者の高齢化等により、管理が困難となっている状況もあり、利便性の確保、生産性の向上のための整備を引き続き行うこととします。

林業については、木材の需要が伸び悩み、

価格の低迷が続いておりますが、国土保全をはじめ、環境、水資源の涵養など森林の持つ機能を十分認識し、作業路の整備や町有林の活用等、適宜対応いたします。

3 少子高齢化対策・保健事業の充実

全国的に少子高齢化が一段と進み、人口減少時代へと向かっています。少子化は未婚率の上昇や晩婚化に加え、子育てに金がかかることが要因といわれています。

働く女性たちが安心して子育てのできる環境づくりが強く望まれています。平成20年中の本町での出生児は28名であり、将来を危惧しています。今後も少子化対策、子育て支援の一環として引き続き、保育園に気軽に集える親子の交流の場や、保育料の上限設定、保育時間の延長や一時保育、乳幼児医療費の就学前までの全額助成や義務教育終了時までの医療費助成、また妊婦検診の助成回数を増やすなど子育てしやすい環境づくりに努めます。

また、高齢者対策については、本町の65歳以上人口は平成21年2月現在で1,595名となっており、高齢化率は29.5%に達しており、さらに進むものと考えられます。より一層高齢者対策の充実が求められており、今年度から「地域包括支援センター」の体制をより強化し、役場直営で事業を行い、さらにきめ細かなサービスに努めてまいります。

保健事業については、毎年、増加の一途にある医療費を抑制し、医療制度の安定化を図るため、国は国民皆保険のもと、医療制度の安定化を図るため、「医療費の適正化」、「後期高齢者医療広域連合の創設」などの医療制度改革が行われました。

なかでも、医療費適正化を総合的に推進するため、平成19年度に本町で策定した「特定健康診査等実施計画」に基づき、平成20年度から実施している特定健康診査、特定保健指導によって、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）等、生活習慣病の疾病予防を重視し、特定健診受診率の向上に努め、医療保険者による特定保健指導の充実を図り、医療費の抑制や、個別指導の充実に努め、町民

の健康づくりを行います。

また、最近では悪性疾患による死亡が多く見受けられることから、引き続き各種検診に対して助成を行うこととしています。このことが早期発見、早期治療につながり、医療費の節減になると考えています。

なお、世界的に流行が懸念される新型インフルエンザについても、その対策に取組んでいます。

今後はなお一層、行政と関係機関・団体との連携をとりつつ、高齢者、身体障害者、ひとり親家庭等の町民の福祉行政と健康づくりを進めてまいります。

4 21世紀を担う人づくりと教育

教育は、人間形成の基本をなすものと考えます。

子どもたちの学力低下や社会性の欠如が懸念される今日にあって、次代を担う木城の子どもたちが心の豊かさを実感し、創造性を高め、新しい時代に対応する能力を育むために、知徳体のバランスの取れた教育の推進が重要であると考えます。

義務教育は、確かな学力と健康な身体、豊かな心を身につけることが大切であります。行政・学校関係者が一体となつて教育の向上に努めることとし、平成21年度も引き続き学力向上サポーターを配置することとしました。さらに、義務教育費の保護者負担軽減を副教材費等に拡充して実施することとしました。また、学力向上のみならず、児童生徒の健康増進にも取り組む、その一環として、学校医、県の歯科衛生士と連携した歯科衛生事業を各学校で実施します。

また近年、児童生徒の安全が脅かされている現状にかんがみ、通学時の安全確保をはじめ、安全で安心して暮らせる町づくりに積極的に取組むこととします。

地域・家庭・学校が一体となつて子どもを育てる「地域教育システム推進事業」及び「学校支援地域本部事業」に取り組む、地域の教育力の向上を図ります。

学校施設については、耐震対策として、木城小学校講堂の取り壊しと、改築のための設

計を行います。また、木城小学校・中学校校舎の老朽化による雨漏り対策工事と、中学校校舎外壁塗装工事を実施することとしました。

生涯学習については、その重要性が求められています。木城町総合交流センターが建設中であり、教育振興の中核施設として、誰もがいつでも、どこでも文化や趣味を学ぶことができるよう充実に図ります。

また、電源立地地域対策交付金により町営グラウンドの全面改修を行うこととしています。

5 環境への取組み

今日の環境問題は、ゴミや水質汚濁などの身近な問題から、地球温暖化やオゾン層破壊という地球規模の問題まで、広範囲かつ多様化しています。

特に、生活環境及び自然環境は急激な変化を見せ、年を追うごとに緊急かつ重要な問題として取り上げられています。

本町では、生活に一番身近な環境問題として、ゴミ排出量の減量化を推進します。また資源ゴミの分別の徹底によるゴミのリユース及びリサイクルの推進に取り組んでまいります。

ゴミ量の減量化を推進し、資源を有効に活用していくことが環境負荷の低減につながり、地球にやさしい環境対策の第一歩になると考えています。

また、地球温暖化対策推進法に基づく地域推進計画を策定し、行政だけでなく、住民一人ひとりが生活環境、自然環境を守る理解者として、環境保全に対する意識の高揚を互いに図り、循環型社会の構築を推進していく考えであります。今後も地域住民の協力を得て不法投棄の防止、美しい町づくりを町民と行政が一体となり、町及び地域の生活環境及び自然環境を守る施策を推進してまいります。

6 恵まれた自然を生かした観光・交流事業の推進

定住人口の増と地域社会の活性化を図るためには、恵まれた自然を生かした観光事業の推進と、交流人口の拡大が不可欠と考え、交流事業に取り組んでまいります。

そのためには、「木城えほんの郷」をはじめ、「木城温泉館湯らら」、「川原自然公園」などの交流事業の基盤となる施設の整備を進めてまいります。

川原自然公園につきましては、カヌー・ボルダリングに加えてマウンテンバイクの常設コースを整備し、今後は季節や天候を問わず利用できる施設として整備し、アウトドアスポーツの発信基地として地域の活性化を図っていきます。

また、平成20年7月にオープンした「小丸川発電所展示館ビノックパーク」に併せ、石河内にあります「木城えほんの郷」をはじめ各施設が連携して、その魅力を発揮できるよう展示館周辺（仮称：中八重緑地公園）の整備を引き続き行うこととします。平成20年2月に埼玉県毛呂山町と結んだ「友情都市」との文化交流や沖縄県うるま市との交流事業を継続し、相互の発展に努めます。

なお、定住や移住の施策を推進してまいります。今後はさらに教育・文化・産業・医療などの分野で交流が深まることを願っています。

7 商工業の振興

商業の振興については、町商工会と連携を密にし、消費者の利便性確保や、商業基盤の整備を図りながら、中小小売業の積極的な取り組みに支援し、商店経営の活性化を推進してまいります。

工業の振興は、住民の雇用確保の場として重要なものと位置づけ、工場立地環境の整備を図りながら、地場産業や既存企業の経営安定と企業誘致及び支援を行うこととします。

8 交通安全・防犯への取組み

自動車の普及と道路網の整備により交通量は大きく増加しています。

特に、県道「木城・西都線」、都農・綾線

の交通量は年毎に増加傾向にあり、朝夕は横断するのにも困難な状況であります。町内での交通事故発生状況は、減少傾向にあります。依然として飲酒運転、シートベルトの未着用はなかなか改善されず、交通安全意識の高揚に努めなければなりません。今後は、事故多発地点の道路改良、安全施設の整備等に努め、交通事故違反「0」を目指して交通安全の普及啓発に努めてまいります。

9 各施設整備について

平成19年度から平成23年度までの5カ年計画で、国土交通省所管の補助事業「まちづくり交付金事業」に取り組んでいます。都市再整備計画に基づき、まちづくりに必要な施設整備事業やソフト事業に取り組むこととします。

また、老朽化したオフトーク放送設備の改善策として、無線方式による「地域コミュニケーション通信システム」の整備及び地上デジタル放送の難視聴地域の解消に取り組みます。

なお、町営住宅については、一戸建住宅を向河原に6戸建築することとしました。また、次年度以降の建築についても、入居希望者の動向を見ながら計画することといたします。

10 県道整備について

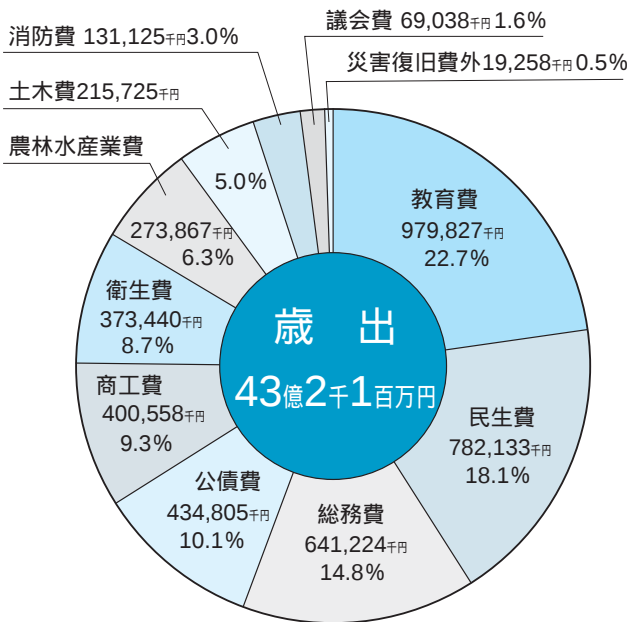
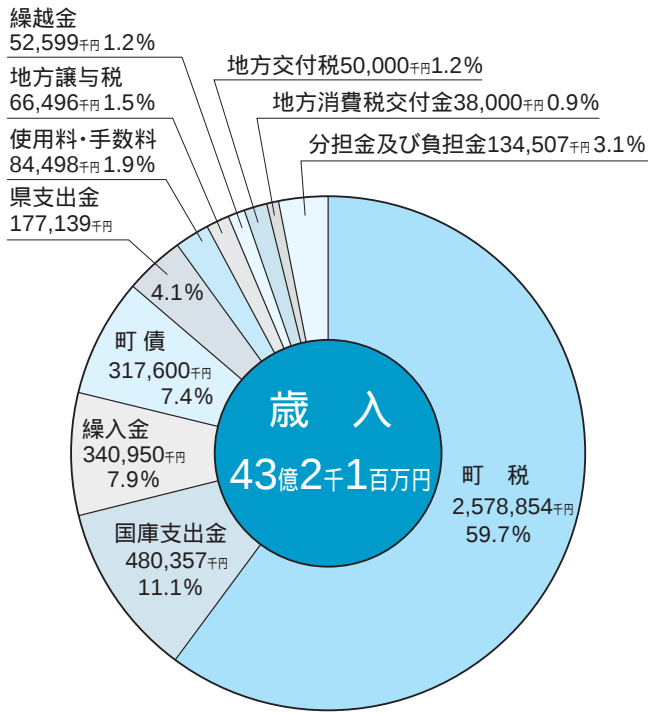
県道「木城・西都線」の「椎木坂」の改良については引き続き要望してまいります。また、高城橋については、近年大型車両の往来により自転車等の通行がままならなくなっていますので、歩道橋の設置を要望してまいります。

「東郷・西都線」についても既設道の改良を引き続き要望してまいります。

以上、主な政策について申し上げましたが、先人たちが営々と築き上げられた歴史や文化、恵まれた自然環境を将来に継承し、町民の幸せと町の発展に向けて努力してまいります。

平成二十一年度 一般会計予算

平成21年度の一般会計予算43億2千100万円が、議会で可決されました。皆さんの納めていただく税金や国・県からの補助金などがさまざまな形で使われています。毎年広報誌では、この予算が私たちの生活の中でどのように使われるのかお知らせしています。



一般会計
前年比17・3%増

私たちの生活に最もかわりの深い一般会計予算は、今年度歳入・歳出、それぞれ43億2千100万円となり、昨年度当初と比べ17・3%増となりました。

歳入

平成20年度から、小丸川発電所運転開始による固定資産税のため、歳入における自主財源比率が大きく改善されました。しかし、公債費や特別会計繰出金など財政を圧迫する要因もあることから、真に必要な財源配分を行ない、健全財政を保つよう努めています。

性質別の割合では、町税や使用料・手数料などの自主財源が、31億9千万円足らずとなり予算総額の73・8%、国・県支出金などの依存財源が11億3千万円余りで同26・2%となりました。

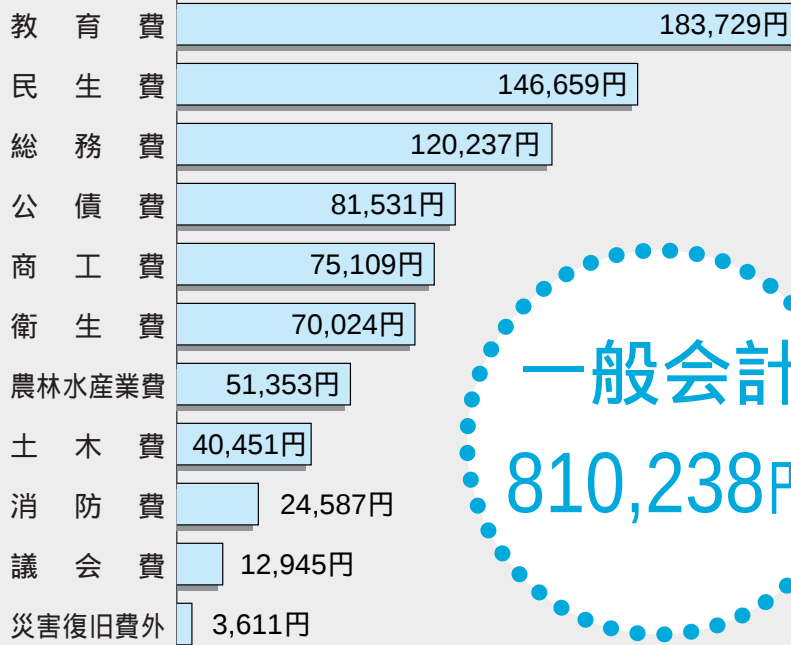
歳出

性質別の割合は、人件費や公債費等の義務的経費が、34・2%、物件費や補助費等の一般行政経費が、36・2%、普通建設費等の投資的経費が29・6%となっています。

目的別では、教育費が最も大きく、次いで民生費、総務費の順となっています。その主な要因は、それぞれ、総合交流センター建築工事、扶助費、人件費によるものです。

町民一人当たりに使われるお金

(平成21年4月1日現在 人口5,333人) (単位: 円)



一般会計

810,238円

平成21年度 普通建設事業費 の主なもの

- 総合交流センター
建築工事
4億3,000万円
- 町営グラウンド
整備工事
1億4,581万円
- 中八重緑地公園
整備工事
1億650.2万円
- 中八重緑地公園
大型屋根設置工事
6,031.4万円
- 町道荒瀬2号線工事
4,600万円
- 川原自然公園
駐車場整備工事
3,240万円

一般会計・特別会計予算一覧表

(単位: 千円)

区 分		平成21年度	平成20年度	平成19年度
一 般 会 計		4,321,000	3,683,000	2,951,000
特 別 会 計	国民健康保険	754,000	825,000	823,000
	老 人 保 健	45,300	83,900	669,800
	介 護 保 険 (保険事業)	507,000	523,000	514,000
	介 護 保 険 (サービス事業)	8,000	-	-
	後期高齢者医療	46,700	57,300	-
	簡 易 水 道	117,000	120,000	126,000
	下 水 道	600,000	478,000	470,000
総 額		6,399,000	5,770,200	5,553,800

一般会計歳入性質別

(単位: 千円)

区 分	平成21年度	構成比	平成20年度	構成比	伸び率
自 主 財 源	3,189,756	73.8%	3,072,963	83.4%	3.8%
依 存 財 源	1,131,244	26.2%	610,037	16.6%	85.4%
合 計	4,321,000	100%	3,683,000	100%	17.3%



NinGenBanZai 人間萬歳

このコーナーは、毎回町内在住・勤務されているいろんな方々に登場していただきます。
さて、今回登場するのは、この人！



写真右 井上さん

いの うえ まさ つく
井上 雅 嗣 さん(25歳) 在南
お 仕 事：消防士 趣味：野球
家族構成：両親・弟・祖母・叔母の6人家族

●自己紹介

消防職員になって3年目になり、やっと生活に慣れてきました。良き先輩に恵まれ毎日が発見の連続です。4月から夢であった救助隊に異動となりがむしゃらに頑張っています。そして、周りの友人が結婚していく中で私も結婚の方向にむかい準備しています。いつも周りから支えてくれる皆さんに感謝いたします。

(いつまでも感謝する心を忘れずに過ごしたいですね。)

●最近の出来事！《うれしかったこと》

WBCでの日本代表世界1ですね！！ 一野球人として本当に嬉しかったです。少しの期間韓国に住んでいたのも、決勝はある意味楽しめました。木城町から日本代表に選ばれる選手が出てくることを楽しみにしています。

(野球少年団の指導者募集中！！あなたの経験を生かし、木城町からも日本代表を！！！)

●木城町について・・・コメント

昔から木城町は田舎と言われ続けてきました。でも、最高の町だと思っています。最高の町で最高の仲間にもまれて一生この木城町で暮らして生きます。

(子育てするなら木城町が1番。野球をするなら木城町が1番。ぜひ指導者に！！ ～ブヨンセ～)

平成21年度木城町消防団幹部・部長が決まりました！

(敬称略)

職 名	氏 名	管 轄 地 区
団 長	甲 斐 政 治	
副 団 長	中 村 裕 一 郎	
〃	矢 野 哲 也	
第1分団長	永 友 直 仁	第1部～第6部
第2分団長	吉 良 清 志	本部、第7部～第11部
ラッパ部長	巽 雄 司	兼務
本部部長	桑 原 幸 一	町内全域
第1部 部長	上 野 満 広	田畑、一向瀬、重木
第2部 部長	高 橋 茂 義	四日市、出店、池田、中川原
第3部 部長	稲 口 勝 哉	中椎木
第4部 部長	山 下 利 幸	岩瀬上・下
第5部 部長	牧 草 謙 児	比木
第6部 部長	久 保 和 昭	陣之内、牧之内、中原、溜水、百合野
第7部 部長	黒 木 幸 一	大字高城(中川原、田神、岩戸除く)
第8部 部長	重 永 建 二	田神、岩戸、新岩戸
第9部 部長	河 埜 久 之	大字川原全域
第10部 部長	江 藤 輝 幸	大字石河内全域
第11部 部長	中 嶽 全 志	大字中之又全域



【新部長任命式(4月1日)】



「高城合戦を彩る武将達 島津義弘について」

今回は、前回紹介した島津義久の弟にあたる義弘について述べたいと思います。

義弘は、天文四年（一五三五年）に島津家第一五代当主 貴久の子として伊作城（現在の鹿児島県日置市）にて生まれました。義弘は二歳年上にあたり、弟には、二歳年下の歳久と二歳年下の家久がいます。この兄弟は、それぞれの個性を発揮して、戦国時代の九州地方に島津氏の地位を確立させました。特に次男である義弘は、兄弟の中でも、その勇猛ぶりは特筆すべきものであり、数々の戦いに明け暮れていました。

その義弘の初陣は、天文三年（一五五四年）岩剣城（鹿児島県始良町）での戦いです。ここでは、島津氏が初めて戦いで鉄砲を用いた戦いとして知られています。

この戦いで大きな手柄を立てた義弘がさらに活躍した戦いが、元龜三年（一五七二年）木崎原の戦いです。当時の日向国（現在の宮崎県）全体は伊東氏が支配をしていましたが、薩摩国（現在の鹿児島県）から勢力をつけてきた島津氏と共に飢肥地方（現在の日南市）を巡る争いを繰り広げていました。そこで、伊東氏がその戦いに一歩リードした形で、さらに薩摩国と大隅国（現在の鹿児島県大隅半島方面）と日向国の接点に当たる、真幸院（現在のえびの市）の奪取に手を伸ばそうとしていました。

この攻撃に対抗すべく、戦いの最前線に躍り出たのが義弘であります。伊東氏が攻めようとする真幸の飯野城に入り、伊東義祐が率いる二手の軍に対して僅かな軍勢で敵の主力を襲い、見事に勝利を収めることが出来ました。この戦いにより、島津氏は、南九州における地位を確固たるものにしました。

この戦いで敗北を喫した、伊東義祐が頼った大友氏と島津氏の二度に渡る戦いが高城合戦であります。一回目の天正六年（一五七八年）の戦いでは、義弘は兄義久とは違ったルートから、後詰として山田信介有信を城主とする、高城を援護射撃し、大軍で攻める大友氏の軍勢を迎え撃ち、歴史的な勝利を導く活躍をしました。

この戦いで勝利をした島津氏は、日向国の経営を安定させ、肥後の龍造寺氏を打ち破り、九州全域を制覇する勢いを見せつけました。そこで、天下統一を狙う、豊臣秀吉の軍が九州征伐を果たすために弟である、秀長の軍勢を同じく高城に派遣して繰り広げられた戦いが二回目の天正五年（一五八七年）の戦いでありました。

ここでは、義弘は兄の義久と共に、豊臣氏の軍勢が構える根白坂の陣に夜襲を仕掛けることになり、一進一退の攻防をしながらも、多大なる犠牲者を出すことにな

ります。実力の差を痛感した義久はついに豊臣秀吉に和睦を申し入れ、戦いに終止符を打つことになりました。

この戦いで九州を平定した秀吉は、義久には薩摩国を与え、義弘には大隅国と日向国の一部を与えることになりました。その後、文禄元年（一五九二年）義弘は、病中である兄の義久に代わって、秀吉から朝鮮出兵の命を受けます。しかし、国元からの支援がなく、貸船を乗り継ぎ、ようやく釜山に到着しましたが、軍兵がおらず、日本一の大遅陣となりました。その後、明（中国の当時の王朝）と秀吉の交渉が決裂して、起きた慶長三年（一五九八年）の慶長の役では、明と朝鮮の大軍に大勝利を収める活躍を果たします。



高城陣構図（日南市飢肥歴史資料館所蔵）

そして、秀吉の死後、慶長五年（一六〇〇年）に天下分け目の戦いとして名高い関ヶ原の戦いで、義弘率いる島津軍は、石田三成率いる西軍に属していました。しかし、戦いの成り行きを見守るために、三成の再三に渡る要請を無視して、徳川家康率いる東軍の勝利の確定を見届け、一気に敵中を突破し、見事な撤退を果たしました。これは、「島津の退き口」として、後世に語り継がれることとなりました。

以上のように、九州地方に止まらず、戦国時代における分岐点となる大きな戦いにおいて、見事とも言える活躍を果たした島津義弘は、当時の戦国大名の中でもその存在は、輝かしいものであることが言えるでしょう。

（白岩 修）

（参考文献）

- 「歴史群像シリーズ 戦国セレクトション 裂帛島津戦記」二〇〇二年 学研
- 「歴史群像シリーズ 戦国九州三国志」二〇〇八年 学研
- 「戦国武将 島津義弘」平成一八年度 開館二十周年記念特別展図録 始良町歴史民俗資料館 二〇〇六年
- 「高城戦記」山内 正徳 二〇〇八年 鉾脈社



魚の甘酢炒め

<材料 4人分>

魚切身(赤身魚)	240g
塩・生姜汁(魚の下味用)	各少々
片栗粉	大さじ1
サラダ油()	大さじ1
人参	80g
筍	80g
玉ねぎ	100g
生しいたけ	60g
ピーマン	40g
サラダ油()	大さじ1
酢大さじ	1・1/2
砂糖	小さじ2
ケチャップ	大さじ2・1/2
しょうゆ	大さじ1
中華風だしの素(粒状)	小さじ1弱
水	150cc
片栗粉	小さじ2

<作り方>

- ① 魚切身はひと口大に切り、塩と生姜汁をふりかけ下味をつける。水気をふいてから片栗粉をまぶし、サラダ油で焼いていったん取り出す。
- ② 人参は一口大に切り、芯が残る程度に下ゆでしておく。他の材料も一口大に切っておく。
- ③ 調味料を合わせておく。
- ④ フライパンを温め、サラダ油でピーマン以外の野菜を炒め、③の調味料を加え混ぜながら煮立たせ、ピーマンと魚をもどし入れ再びひと煮立ちしたら皿に盛る。



<レシピ提供>

木城町食生活改善推進員

「脱メタボ」ポイント!

下ごしらえを揚げずに焼くことで約150Kcal減らす事ができます。
また、味付けに「酢」を使うことで減塩にもなります。

<1人当り栄養価>

エネルギー	185 Kcal
塩分	12 g

<キャベツの「ちぎるだけ」スープ>

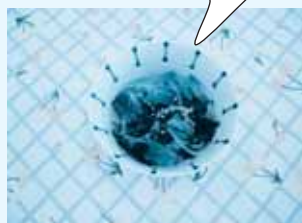
<材料 4人分>

キャベツ	80g(約3枚分)
もやし	80g
わかめ(乾燥)	10g
水	600cc
固形スープの素	1個
塩・こしょう・ゴマ油	各少々

野菜はちぎるだけ! 包丁・まな板は一切使わずにできるので「野菜はとりたいけど忙しい~」人にはオススメです。

<作り方>

キャベツはちぎり、他の材料と固形スープの素・水と一緒に火にかけひと煮立ちしたら、塩こしょうで味を整えて最後にゴマ油をたらす。



地区やグループへ 調理実習を行っています

楽しくヘルシーメニュー作りませんか?



子育て支援センターマクッキング

調理実習の依頼・問い合わせは
保健センター(32-4010)まで

食生活改善推進員と栄養士が地区にうかがいます。

インド大地の光 ラマチャンドランの絵本と民俗画の世界展

2009年4月24日(金)～6月28日(日)



『ヒマラヤのふえ』



『ミティラー画』



銅版画



料金 大人500円
小中高生300円

(前売 大人400円・小中高生200円)



『10にんのきこり』



『おひさまをほしがったハヌマン』



『ミティラー画』

木城えほんの郷は、2009年の新緑の美しい季節。
ゴールデンウィークを中心に、毎年恒例になっている
“木城えほんの郷2009”を開催いたします。そのメイン企画と
して、「インド大地の光ラマチャンドランの絵本と民俗画の世界展」を開催
いたします。アジアの照葉樹林帯に位置する木城えほんの郷は、多様
な展開を進める現代絵本の世界で、特に、アジアの土の香のするすく
れた絵本に光のあたる作業を進めています。

今回の「木城えほんの郷2009」では、インドの現代美術を代表する画
家ラマチャンドランに光をあてた絵本原画と、インドの民族を描く、木版画、
銅版画、ミティラー絵画などを展示します。また、この原画展とともに、ゴ
ールデンウィーク恒例のイベントも予定しています。新緑の美しい木城えほん
の郷の一日をどうぞお楽しみください。

☆ 木城えほんの郷2009

2009年4月29日～5月6日

★ 子どもの森のあはなし会
絵本を読んでもらったことがありませんか
4月29日(水) 5月2日(土) 5月6日(水)
森のえほん館

あなたの心に、たのしい絵本の世界がひろがるよ!

★ 作ってあそぼう
竹や木が、たのしい笛やせいに変わるよ
4月29日(水) 5月3日(日) 5月6日(水)
森の広場 森の受付棟

万華鏡づくりといもむしごころ(5/3)
そらめくくん(5/4)
ひょうたんを使った楽器づくり(5/5)

★ 絵本トーク
私のあすすめの本
4月29日(水) 5月3日(日) 5月6日(水)
森のえほん館

赤ちゃん絵本(4/29)
物語絵本(5/3)
科学の絵本(5/4)
昔ばなし絵本(5/5)
幼児絵本(5/6)
日替わりの絵本トーク

★ 本のしい絵本を手にこえて!
4月24日(金) 4月28日(日)
森のえほん館

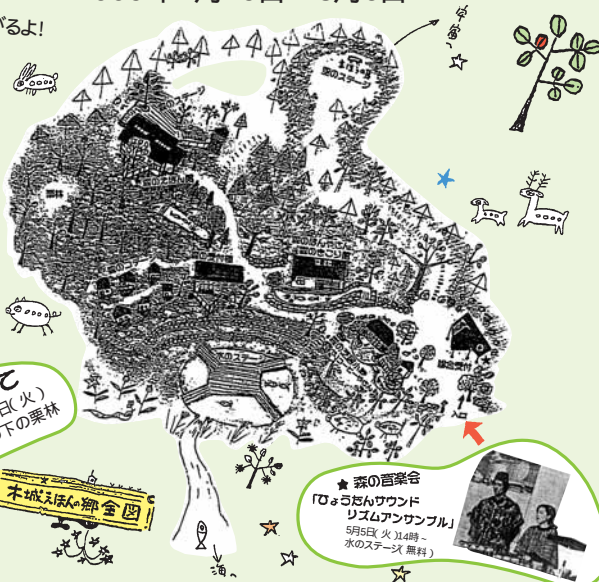
森の絵本館の絵本室には、絵本原画展にあわ
せた関連の絵本や、日本や海外の絵本、児童書、
読み物など、14000冊以上展示されています。

★ 森のコーヒーやせん
手作りのカレーやコーヒーは、いかが?
GW期間中は時間短縮して開店します
森の芝居小屋

編集後記

新緑がすがすがしいこの時期、学校
は新学期、職場では新年度と皆さん新
たな気持ちで頑張っていることによ
う!

木城町でも定額給付金申請受付が始
まり、そそくそと町民の方が申請に訪
れ、活気があふれています。活気とい
うと、先に行われたWBC(ワールドベ
イスボールクラシック) 侍ジャパンの
活躍でしょう。決勝では、宿敵韓国と
の激闘のすえ勝利し、2連覇を果たし
ました。野球ファンのみならず、日本
中が興奮の渦に巻き込まれたのは間違
ないでしょう。この大会で3番ハ
ターを務めたのが青木宣親選手。青木
選手は日向高校出身で、早稲田大学か
らヤクルトスワローズに入団しチ
ームの中心選手として活躍しています。筆者
も微力ながら、野球スポーツ少年団の
指導をやらせていただいています。が、
いつの日か甲子園で、プロ野球の世界
で、世界の舞台で活躍してくれる教え
子が巣立っていくのを夢見ています。



★ 野だて
5月4日(月) 5日(火)
森のえほん館の下の栗林

木城えほん郷金庫

★ 森の音楽会
「おうちでサウンド
リズムアンサンブル」
5月5日(火) 11:45時
水のステージ(無料)

【町の人口】 (21年4月1日現在) ●人口 5,333人(先月比 - 30人) ●男 2,549人(- 17人) ●女 2,784人(- 13人)
【世帯数】 2,049世帯(先月比 - 10世帯) 【町面積】 146.02km²
【発行】 木城町役場 〒884-0101 宮崎県児湯郡木城町大字高城1,227-1 TEL.0983-32-4725・FAX.0983-32-3440
【編集】 総務課